

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

平成31年4月1日改正
(平成31年4月1日適用)

①第三者評価機関名

NPO 法人ナルク福祉調査センター

②施設・事業所情報

名称：岐阜市立柳津東保育所	種別：保育所	
代表者氏名：小野木 真紀	定員（利用人数）： 120（133）名	
所在地：岐阜市柳津町蓮池5丁目35番地		
TEL：058-387-3666	FAX：058-387-3543	
メール：ho-ya-higasi@city.gifu.gifu.jp	ホームページ：https://www.city.gifu.lg.jp/5845/htm	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 昭和50年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）： 岐阜市		
職員数	常勤職員： 15名	パート職員： 13名
専門職員	所長 1名	保育士 8名
	副所長 1名	調理員 5名
	保育士 13名	
施設・設備の概要	保育室 7室 事務室1 調理室1 遊戯室1 資料室1 手洗い所 2	（設備等） プール、砂場、鉄棒、のぼり棒 ブランコ、ジャングルジム シーソー 総合遊具

③理念・基本方針（※転載）

理念

- ◆子どもの最善の利益を保障します。
- ◆子どもにとって最もふさわしい生活の場を保障します。
- ◆家庭援助や地域における支援を積極的に進めます。

基本方針

生涯にわたる生きる力の育成。

- 自分のことを自分でする力
- 人とかかわる力
- 身近な物や出来事とかかわる力

安心安全な環境のもと、子どもが主体的に遊ぶことができる環境をつくり、様々な

「遊び」を通して「生きる力」や「学び」の基礎を育めるようにしています。

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

●立地・環境

- 柳津地区は岐阜市の南東部に位置する。西には境川、東には木曾川が流れている。優良な農地が多く残されているものの、近年宅地への転用が急速に進められ、都市計画道路の整備率も7割弱の高い整備水準である。柳津東保育所の直ぐ北を東西に走る県道154号線沿いには大規模商業施設をはじめ、銀行、カーショップ、多くの外食店、ドラッグストア等が軒を連ね、生活の拠点地域となっている。
- 昭和50年4月に設立された柳津東保育所は、地域が大きく変貌する中で、当時の面影をそのまま残したような佇まいで、敷地面積も大きく、園庭の広さは岐阜市公立保育所随一である。園舎の周囲には多くの桜やどんぐりの木などが大きく育ち、花見、どんぐり拾いなどが園内ででき、園庭の直ぐ側を子どもたちの好きな名鉄電車も走るという、恵まれた環境である。
- 設立時は羽島郡柳津町立であったが、平成18年1月岐阜市と合併し岐阜市立柳津東保育所となった。定員も地域のニーズに応じて90人から年々増加し現在は0歳児から5歳児まで合計133人が通所している

●新型コロナウイルス対策

- 感染防止のため、保護者の保育室入室の禁止、例年実施されている保護者懇談、地域老人クラブとの交流（カトリア会、お年寄りとのふれあい会）、地域行事への参加（敬老会、市民運動会、柳津文化祭、ふれあい餅つき会）、保育士の研修会、公開保育（他保育所）の中止、実習生の受け入れ中止など、やむを得ない事であった。
- 子どもたちは、登所時の健康チェックカードの記入（検温、咳の有無）、園庭で遊んだ後、散歩後の手洗い、うがいが励行されていた。
- 給食では、従来の対面式（4人掛け）から並列式（2人）とし、食事中はもちろん、配膳中も一切おしゃべりはせず、ずっと静かであった。また飛沫防止のため、机の上に、段ボールを洗濯ばさみを利用して衝立にするなどの工夫も施されていた。
- 給食前の手洗いは、持参したタオルではなくペーパータオルを使用している。
- 職員は毎日健康チェック（検温、症状の有無）、常時マスクの着用を実施している。
- 玩具消毒については滅菌ロッカーによる消毒（レゴブロック、ぬいぐるみなど）が行われていた。
- 給食食材納入業者及び来所者は、検温、風邪症状、確認時間などが記録され、設備では、自動水栓の設置、滅菌ロッカー、コット（午睡用ベッド）などが整備されていた。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年6月25日（契約日） ～ 令和3年1月26日（評価結果確定日）
--------	--

⑥総評

◇特に評価の高い点

●「お店屋さんごっこ」

- ・「お店屋さんごっこ」は子どもたちの大好きな遊びであり、年長児はいろいろ考え、独創的な遊びをする。5歳児クラスでは、「えいがかん」で映画を上映していた。「はらぺこあおむし」「どらえもんとからピコぱー」の二本立てで、子どもたちが描いたおもむしや、さなぎ、ちょうちょを写真に撮りプロジェクターからスクリーンに映し出し、マイクで子どもたちが順番に交代しながらナレーションをしていた。上映に先立ち、「これからえいがかんが、開店します。みなさん見に来てください」と本物のマイク放送をするという、念の入ったものであった。映画館につきものの、ポップコーンも販売していた。
- ・長い廊下を利用して、タクシーが営業していた。保育室に山麓のドライブコースを作り、遊戯室前のバス・タクシー発着場から、乗客はお金を払ってドライブコースを一周する。途中には赤信号もあり、信号が青にならなければ発進できない。
- ・カラオケコーナーでは、「どらえもんの歌」などを実際にCDをかけ、その曲に合わせて大きな声で歌い、聴いている子どもたちはハンドベルなどを鳴らして一緒に鑑賞するという本格的なものであった。

●玄関・廊下の掲示・展示

- ・コロナ禍で、保育室へ入れない保護者への情報提供の場として、玄関、廊下を活用し、保護者へ多くの情報の掲示や展示に工夫がされていた。
- ・保育理念、各クラスの保育目標や、保育所だよりのほか、食育コーナー、ほけんコーナー、行事コーナー等、それぞれのコーナーを設け、大きく掲示されていた。また、毎日の生活の「デイリープログラム」、写真入りの職員紹介、お散歩マップも写真やイラスト入りで可愛く描かれていた。
- ・廊下を利用し図書棚の上には、きれいに飾り付けがされ、季節の絵本（クリスマス、サンタクロース、白雪姫など）をブックスタンドに飾るなど、興味を誘う工夫も施されていた。

●子どもたちの日常生活

- ・コロナの感染防止のための手洗い、うがいが時間をかけて、丁寧に行われているのが印象的であった。
- ・年長児（5歳児）は登、降所時にはマスクを全員着用している。園庭、保育室でも、食事中を除きマスクの着用が徹底して行われている。
- ・年長児（5歳児）は当番制で毎日マイク放送を行っている。朝の外遊びのあとのおかたづけの放送に始まり、日常の園内の活動でも、マイク放送が盛んである。放送設備は事務室にあるが、事務室には「失礼します」と挨拶して入っている。

●福祉サービスの質の向上・安全管理に向けた取組

- ・保育士の「自己評価チェックリスト」による振り返りが全職員によって実施されている。

- ・毎月各保育室について保育士は、「床は滑りやすすくないか」「外部からの侵入に対して危機管理を図っているか」等34項目の事故防止チェックを行っている。
 - ・ヒヤリハット報告は発生件数、発生時間帯、発生場所などが毎月集計され、職員会などで意見交換、再発防止について話し合いが行われている。
 - ・ヒヤリハット報告を半期ごとに集計し、折れ線グラフ、棒グラフなどで表示されている。グラフにより、発生曜日は金曜日、発生時間帯では主活動の時間が最も多く、次いで午後の自由遊びの時、発生場所は保育室が圧倒的に多く、身体では手、口、尻、頭の順に多いことが一目瞭然に分かる。
- 保護者アンケート
- ・今回の調査に際し、当調査センターは保護者全員（133人）に38項目について満足度のアンケート調査を実施した。アンケートの回収率は55.6%と保護者の関心は高く、総合満足度は100%であった。特に園庭内で四季の移り変わりの自然を体験できる園庭の広さについては保護者も子どもたちも十分満足しているようであった。
 - ・また、5歳児の男女4人の子どもにインタビューを行った。遊びのこと、給食のこと、手洗いのこと、ケガのこと等いろいろな質問に、みんな元気に答えてくれた。子どもたちが保育所生活をのびのびと、心から楽しんでいることを窺うことができた。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受審するにあたり、職員全員が保育内容、園内環境、自己資質について丁寧に見直すことで様々な気づきがありました。そして職員会や研修会を開き、良い点や課題を明確にしたことで改善に向けた学びが深まりました。特に「保育所保育指針」が保育所運営の基盤であり、指針の理解を深め、その内容に沿った保育所独自の保育を進めていくことが大切であることを確認することができました。

今年度は新型コロナウイルス対策の為、例年通りに活動することが難しかったです。日頃から地域の方や保護者の方の支えがあるおかげで保育所の運営が充実していることや連携の大切さを実感することができました。

今後も一人一人の子ども、保護者に目を向け、さらなる保育の質の向上を図り、サービス提供に努めていきます。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。